

2013 年度 センター試験 政治・経済 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：36 問	
難易度の変化（対昨年）	難化	やや難化	変化なし やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし	減少
出題分野の変化	あり	なし	
出題形式の変化	あり	なし	
新傾向の問題	あり	なし	

総評

大問数は 5 題で昨年と変化なし。解答数は 2 題減少し 36 題となった。3 年ぶりに地図を用いた出題がされた。政治分野からの出題割合が高かった昨年に比べ、経済分野からの出題割合が増加し、比重が逆転した。リード文全体を読ませ、その主題との関連のある出来事を問う問題、適当な語句、文章を 3 つから全て選ぶ形式の 7 択問題といった新傾向の問題が見られた。難易度は昨年に比べ、若干難化したものと思われる。図表問題を含め、選択肢の正確な理解には、より多くの知識量と読解力が要求された。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	福祉国家をテーマとし、政治・経済全般を問う。	28 点	選択肢中に重要語句が多く含まれ、用語の正確な知識が求められた。問 4 は計算問題ではあるが、入試としては典型的な出題であり、難しくない。問 9 は新傾向であり、細かな知識が問われた。
第 2 問	社会保障、雇用をテーマとし、国際分野を含む経済全般を問う。	17 点	問 3 はグラフの読み取りに加え、知識を要求されておりやや難。問 6 は第 1 問の問 9 と同様の新傾向。
第 3 問	国民の政治参加をテーマとし、政治全般を問う。	19 点	問 2 のグラフ問題は、グラフの読み取りに加え、選挙に関する知識が問われた。問 4 は 3 年ぶりの地図問題であるが、3 年前と同様に紛争地域を選ぶ設問であった。
第 4 問	消費者問題をテーマとし、経済全般を問う。	19 点	消費者問題をテーマとしながらも、広く経済分野の知識が問われた。問 4 はあまり見ない条件であるが、選択肢をよく読めば、典型的な需給曲線の問題であることが分かる。
第 5 問	国境の意義をテーマとし、国際政治経済全般を問う。	17 点	問 1 はリード文全体のテーマと関連の強い出来事を選択する設問であり、新傾向。問 2 は世界貿易進展の流れを追うことで解答できる。問 6 は表が用いられているが、基本的な知識を確認する問題。